

第31 回「木枯らし1号とは」

気象の杜をご覧いただきありがとうございます。今回は、木枯らし（こがらし）についてお話したいと思います。皆様は「木枯らし1号」という言葉を耳にしたことはありますか？ 「木枯らし1号」とは、秋から冬へと季節が変わる時期に初めて吹く北寄りの強い風（北から吹く風）のことで、東京地方と近畿地方でのみ発表されます（東京地方とは、島しょ部を除いた東京都を指します）。「木枯らし」は木の葉を吹き枯らすような強い風という意味です。

発表の条件には、期間や気圧配置、風向、風速などがあり、条件を満たしたときのみ発表されます。東京地方と近畿地方でも、条件には違いがあります。下記がそれぞれの条件になります。

木枯らし1号の条件

	東京地方	近畿地方
期間	期間は10月半ばから11月末までの間に限る。	霜降（10／24ころ）～冬至（12／22ころ）まで。
気圧配置	気圧配置が西高東低の冬型となって、季節風が吹くこと。	西高東低の冬型の気圧配置。
風向	東京における風向が西北西～北である。	北よりの風が吹き、最大風速8 m／s以上。
風速	東京における最大風速が、おおむね風力5（風速8 m／s）以上である。	

（気象庁天気相談所及び大阪管区气象台発表資料により作成）

西高東低は冬に表れやすい気圧配置なので、「冬型の気圧配置」とも言われます。日本列島が東の低気圧と西の高気圧に挟まれること、等圧線の間隔は狭くなります。風は気圧が高いところから低いところに向かって吹くため、等圧線の間隔が狭いほど風が強まります。

この条件を満たしたときにのみ発表されるため、毎年必ず発表されるわけではありません。東京地方の場合、昨年（2023年）は発表されましたが、2021年（令和元年）、2022年（令和2年）発表されず、3年ぶりの発表となりました。ちなみに、今年もまだ発表されておりません。（2024年10月31日現在）

東京地方では、記録の残る1951年（昭和26年）以降で、最も早く木枯らし1号が吹いたのは1988年（昭和63年）10月13日、最も遅く吹いたのは1981年（昭和56年）11月28日です。発表されなかった年も7回あります。

近畿地方では、記録の残る1955年以降で最も早く吹いたのが2020年（令和2年）と2021年（令和3年）10月23日で、最も遅く吹いたのは2003年（平成15年）12月19日です。

現在の発表条件になったのは、1991年（平成3年）からです。そして実は、いつから気象庁が「木枯らし1号」の発表を始めたかについては、正確な記録がないそうです。

「木枯らし1号」は冬の訪れを告げる風物詩でもあります。西高東低の気圧配置は冬型の気圧配置ともいわれます。木枯らし1号が吹くと、いよいよ冬の到来といったところでしょう。